落ち着いた生活環境・学習環境づくりを基盤とした学力向上の取組

井原市立高屋小学校

1 はじめに

本校では、特別な支援を必要とする児童が多く、学級が落ち着かない状況にあったことから、教職員でどのように取り組んでいくかを話し合いました。そして、落ち着いた生活環境や学習環境をつくることと、個に応じた指導を工夫することで、児童の困り感を減らし、落ち着いた学級づくりができるのではないかと考えました。また、それが、学力の向上にも繋（つな）がるのではないかと考え、取組を始めました。

2 本校の取組

（1）落ち着いた生活環境づくり

児童の落ち着いた生活をめざすためにまず始めたのが「高屋小スタンダード」です。「あいさつ」「廊下歩行」「やさしい言葉」の三本柱を決め、教職員と、児童会が中心となり取組を進めていきました。名前を呼んでのスペシャルあいさつや、明るい会釈の取組。静かに右側を歩くことの看板による呼びかけを続けました。やさしさ発表会の取組や、先生から児童に向けたメッセージの取組を一年間続けた学級もありました。

スタンダードの取組は家庭や地域にも呼びかけていきました。

朝から、落ち着いた生活を始めるために取り組んだことに「朝の全校ラジオ体操」があります。体を動かすことで覚醒レベルをあげ、どの児童も落ち着いて学習のスタートが切れるようになりました。

朝の全校ラジオ体操の様子

また、地域ボランティアの方による、全学級での「本の読み聞かせ」も落ち着いた生活環境づくりには有効でした。

（2）落ち着いた学習環境づくり

生活環境が落ち着くとともに、次に教職員で取り組んだのが「高屋小学習スタンダード」です。これも「集中して学ぶ」「正しい姿勢」「学習の準備」を三本柱にし、全校で取り組み、家庭への呼びかけも続けています。授業のあいさつや学習の姿勢、準備など、繰り返しながら徹底することで、見通しをもたせ、学習に向かう心と態度の育成と定着を図っています。

（3）授業づくり

環境づくりの取組と共に、一人一人の自己肯定感を高めるため、校内研究のテーマを「共につながり支え合う子どもの育成」とし、よりよい集団づくりをめざした授業づくりに取り組みました。個々の実態を把握し、ペア学習やグループ学習を取り入れ、学び合いの場の工夫や、みんなで発表し認め合う場の工夫などを通し、お互いに支え合いわかり合う授業を実践しています。

よりよい集団づくりをめざした授業

3 おわりに

児童の落ち着いた生活環境、学習環境づくりの取組を通して児童の意識も変わっていきました。高屋小学校のゆるキャラ「コモラ」が児童の発想で生まれ、「高屋小スタンダード」の高まりと共に「コモラ缶バッチ」もでき、がんばっている児童の胸に輝いています。

教職員アンケートを通して、全員で、児童の成長を確認し合い、次の取組を考えていくことができ、学校全体が一つの方向性で取り組めたことも児童の変容に繋（つな）がりました。

これからも地域や保護者と共に、児童の成長のために、よりよい取組を続けたいと思います。

（校長　井上　猛志）

学校・家庭・地域が連携した学力向上・生活習慣改善の取組

久米南町立弓削小学校

1　はじめに

平成23・24年度、岡山県教育委員会より学力向上実践校事業の指定を受け、中学校区で学習習慣や生活習慣の両面から9年間のスパンを踏まえた見直しを進めてきました。諸調査による分析から、基礎基本の力は概ね身に付いていますが、活用力は今一歩で、自分の考えを既習の学習用語を使ってわかりやすく伝えることが苦手な傾向にあります。

2　取組の実際

(1) 学力の向上に向けて

算数科を中心に思考力・判断力・表現力の獲得を目指し、高め合う力を育てる授業づくりを進めてきました。読み取る力や、説明する力を付けるために、ＩＣＴ機器を活用したり、練り合いの場面で発表ボードを活用したりなど、児童が主体となる授業改善が進みました。また、学習の手引き『こつこつぐんぐん学習』で、家庭学習の内容や時間のめやすを示し、授業と家庭学習をつなぐ取組も推進してきました。ノーメディア週間では、『いきいき生活がんばり表』によりチェックした学習習慣・生活習慣の成果と課題をＰＴＡ母親生活部が主体的に広報誌で啓発するなど、家庭と連携した取組も行っています。

(2) 地域素材を活用した学校づくり

用意した毎月のお題に対して、児童が川柳を作り、「弓削っ子川柳」のポストに投句をしています。地元川柳社の方が審査した優秀句は、広報誌『紋土』にも掲載されます。週目標や行事ごとのまとめで川柳を活用する場面が多く、掲示物が来校される皆様の目を楽しませています。また、3月に開催される講師を招聘した「川柳集会」は、1年間の学習の成果を発揮する絶好の機会となっています。日常の中にある隠された事実を17文字の中で表現することで、言語感覚を磨くことができています。

総合的な学習の時間で、キュウリの栽培に取り組んでいます。県内最大の生産量を誇る農家や選果場の強力なサポートをいただき、児童は役割に責任を持ちながら育て、収穫・出荷し、収益金でお世話になった地域の方々に感謝集会を行っています。地域素材を有効に活用した特色ある活動であり、児童のキャリア発達にも大いに役立っています。

弓削川柳社の方を講師として招聘（しょうへい）した川柳教室
（教育資源を活用した言語活動の充実）

地元キュウリ農家との交流学習
（教育資源を活用したキャリア教育の充実）

3　おわりに

今後も、家庭と学校と地域が一体となった取組を無理なく進めるとともに、児童の実態を考慮した個に応じた指導の充実を図っていきたいと思います。

（校長　後藤　秀則）

「安心・安全な学校」「信頼される大人」「提案・協働的連携」による落ち着いた学校環境づくりの取組

吉備中央町立豊野小学校

1　本校の現状と課題

本校は、学区内に児童養護施設があり、全校児童の約3割が厳しい家庭環境を経験した児童です。課題として「問題行動と被虐待経験との関連」「被虐待児童とのかかわり方」等が存在します。そこで、教育活動を支える柱を「安心・安全な学校」「信頼される大人」「提案・協働型連携」に整理しました。

2　本校の取組

(1) 安心・安全な学校

①児童支援システム

「問題行動にいかに素早く組織的に対応できるか」という課題意識から整えられたシステムです。問題行動を起こしている児童にまず担任・担当がかかわり、すばやく生徒指導担当や周りの教職員に連絡すると同時に、校長・教頭に報告し、必要な対応をとります。

②教職員の「かかわる力」を向上させるシステム

「年度始研修」で、前年度の取組の再確認と新年度の課題を共通理解します。「転任者研修」で、転任者に本校の課題と取組について伝えます。毎月の「支援会議」では、効果的な取組や気になる児童の課題・対応の見通し等を確認します。また、日常的に情報の共有を図ります。

放課後の運動場
朝・業間・放課後には、常時４～５人の教職員が児童と一緒に遊ぶ姿が見られる。お互いの信頼関係づくりの基盤はこの日常である。

(2) 信頼される大人

厳しい家庭環境の児童たちは、処理しきれないストレスを些細なきっかけで爆発させる時があります。そのような時、「どうしたの？」と共感的な姿勢でかかわり、児童の本当の気持ちを「そうだったのか」と受け止め、当面の課題について、「どうする？」と解決への自己決定を促します。更に、児童が変容しようとする変化を認めて「ほめる」。この営みを、毎日繰り返しています。

児童下校後の職員室の風景
放課後の至る所が情報共有･実践交流の場となっている。

(3) 提案・協働型連携

児童の生育歴やその環境、また将来へ向かう養育方針を確認して指導にあたることは、児童の成長に欠かせないものであり、児童養護施設、児童相談所をはじめ、保育園・中学校との連携を重点的に整えていきました。

その視点は、「提案」と「協働」です。「提案」とは、情報の共有と実践を目的にした学校からの発信です。「協働」とは、同じ目標に向かって一緒に活動することです。

3　成果と更なる取組の充実

過去3年間で、問題行動はほぼ皆無となりました。児童の心が安定し、仲間づくりも効果が出てきたと考えられます。教職員の成果としては、生徒指導・教育相談・連携等の実践力が向上しています。

今後も児童の問題行動に有効であった取組を継承・発展しなければなりません。同時に「18才以降の自立」に向けた教育内容の創造が必要だと考えています。

（校長　山本　忠）

生徒指導における一次的支援の充実と授業力向上の取組

岡山市立芳泉中学校

1 はじめに

本校は岡山市南部に位置し、全校生徒数は950名前後と市内でも大規模校になりますが、数年来、生徒指導面のトラブルが増加傾向で、暴力行為の発生件数も多いなど、落ち着かない状況が続いていました。そこで、学校教育目標を見直し、平成25年度から、「豊かな人間性と確かな学力を有する生徒の育成」とし、その具現化に向けて、教職員によるプロジェクトチームを組織し、具体的な取組について検討しました。

2 取組の概要

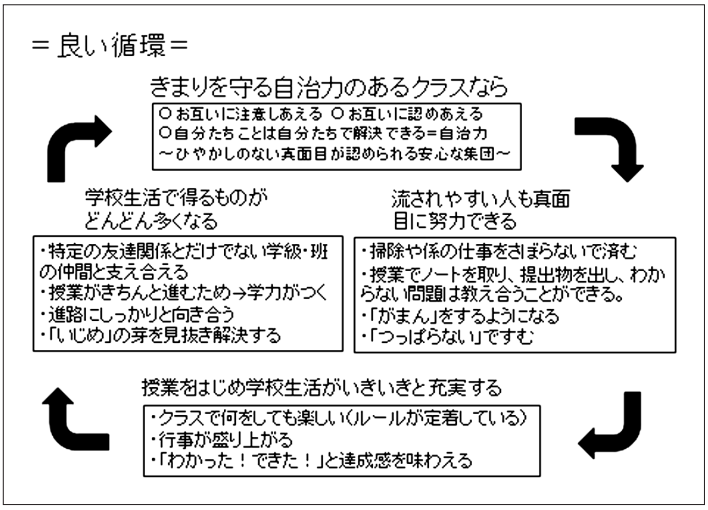
(1) 一次的支援充実の取組

①生徒指導のスローガンとして「いつもの指導に、一工夫を」を掲げ、学級集団づくりに向けた新しい取組を推進しました。

(例) いじめの「傍観者」をテーマにした学年道徳でのロールプレイングの実施。

②毎週「水曜日」を一斉下校とし、全教職員による見送りを実施し、声掛けを行いました。

③学級集団としての「良い循環」「悪い循環」の具体的な姿の図を教室に掲示し、生活の場面場面でのタイムリーな指導を通して、生徒自身に「よりよい集団の在り方」について考えさせました。



学び合いで思考を深める

(2) 授業力向上の取組

岡山市教育研究研修センターの「教育課題別研究」の研究協力校として、「思考力、判断力、表現力の育成」に取り組みました。次の3点を全教員共通の視点として、一貫した流れのある授業づくりを行いました。

・「めあて」→「まとめ」→「振り返り」を位置づける。

・学習したことを交流し、学び合う場を設ける。

・生徒が自分の言葉で、自分の考えや学びを表現する活動を取り入れる。

(3) その他の取組

隔週水曜日の帰りの会の時間を20分延長して、「200字意見文」を書く取組をしました。

3 成果と課題

成果としては、暴力行為など問題行動が大きく減少するとともに全国学力調査においても平均正答率が上昇しました。また、学習状況調査では「自尊感情」、「記述する問題への取組状況」、「『めあて』と『まとめ』等」に関する質問項目で肯定的な回答率が全国平均より高いという成果が見られました。

課題としては、生徒指導面では、不登校生徒や精神的に不安定な生徒への対応。そして、授業づくりでは「学び合い」の場面の設定の仕方が挙げられます。

4 おわりに

今後も温かい学級集団づくりの取組を重ねていくと同時に、生徒のより主体的な学習につながる学習法や学習形態等の工夫をしていきたいと思います。

（校長　正本 巧也）

こども園・小学校・中学校が一体となって進める心豊かな児童生徒の育成の取組

備前市立伊里中学校区

1　はじめに

本学区は日本遺産「閑谷学校」を有する、歴史と自然豊かな地域です。地域は学校を大切にし、応援してくださいます。しかし、地場産業が縮小し、児童生徒数は10年前から半減しました。従来から小・中一校ずつによる人間関係の固定化が課題でしたが、いじめ、不登校、問題行動、学力低下が重大な課題となってきました。

2　伊里学園支援地域協議会

地域の危機感は強く、平成23年、伊里学園支援地域協議会が設立されました。こども園・小学校・中学校は協議会と連携し、学力向上、生徒指導の充実、校園の環境整備に取り組んでいます。併せて、地域行事に児童生徒を積極的に参加させ、伊里の子を伊里で育てる取組を充実させています。

3　三校園の連携の強化

三校園の縦の連携にも力を入れています。

①三校園合同防災訓練

毎年10月に実施します。こども園の園児を中学生が迎えに行き、小学生は先生と中学校に避難します。各地区の区長、備前市役所危機管理課、東備消防本部、伊里交番の方も参加してくださいます。

三校園合同防災訓練

②小・中合同奉仕活動

毎年一回、学区内の伊里駅・公民館・共同調理場・こども園園庭等の清掃活動を行います。中学生がリーダーとなって活動し、児童生徒は大きな達成感を味わいます。今年度は児童生徒が住む地域の清掃も検討しています。

小・中合同奉仕活動

③中学校英語教員の派遣

毎週火曜日、中学校の英語教員が小学校に一日勤務し、外国語活動の授業を小学校担任、ALTとTTで行います。ALTを生かすことができ、授業も充実します。小学生は顔馴染みの教員ができ、中一ギャップが軽減します。また、小・中ともに英検受験者が増え、合格者も増加しています。

④小・中合同研修会の実施

夏季休業中に、学力向上、小中一貫教育等のテーマで合同研修会を実施しています。全教員が外国語、学習、生活、交流の四部会に分かれる小・中一貫教育連携会議も実施しています。更に、小・中相互の授業参観を実施したり、養護教諭を中心にメディアスリム化大作戦を共同実施したり、連携を広げ、深めています。

4　おわりに

このような取組を通して、地域から学校園がどんどん良くなっていると褒めていただくことが増えました。地域と三校園の連携を深め、「郷土を誇りに思い、確かな学力・豊かな心・健やかな体で、未来へ飛躍する伊里の子どもたち」を育てたいと思います。

（伊里小学校長　坪本　義裕）
（伊里中学校長　金光　一雄）